Ⅱ．フォト・コーナー

県精作連の時代

第1回、山田洋二監督を迎え茅ヶ崎文化会館での精神障害者社会復帰支援チャリティーショウ「講演と映画の夕べ」に続き、第二回目は鶴見記念講堂においてトーク・アンドコンサートを実施した時のチラシ。このときの標語は「人間性回復のドラマが今、展開されています。」だった。このときは2100名の参加がありました。

神奈川精神障害者作業所連絡協議会
初代代表　篠田重孝先生
ときわメンタルクリニック院長の傍ら神奈川県精神衛生ボランティア育成プログラム検討委員会委員、青い麦の家運営委員長、はだしの邑嘱託医等、精神障害者の社会参加支援活動に奔走。
今日に続く地域精神医療・保健・福祉体制に関する明確なビジョンを示し、精神衛生ボランティア、作業所指導員などの研修にも力を注いだ。
ハーレーとビールをこよなく愛した。
享年、45歳。

収益事業

設立当初「市精連」は、活動資金はないに等しかった。そんな中、縁あって、横浜ケンタウロス飯田ボスの好意で、チャリティーを実施。この収益金は、貴重な活動資金となった。1988年8月実施。

仏画展

左端はプレゼンターの飯田ボス

チャリテイー仏画展受付風景

収益事業

1990年第1回福祉寄席に続き、91年は第2回福祉寄席、92年には演歌巡礼を実施、毎回100万を超える収益を活動資金として活用させて頂いた。

地域交流事業

神奈川県レベルで実施していた「やすらぎキャンプ」は規模が大きくなりすぎ、支部単位で実施することになり、横浜では「地域交流事業」として1991年から開始した。

衛生局大浜悦子疾病対策課長

地域交流事業部スタッフ

販路拡大事業

1990年横浜市より販路拡大事業費補助金が付いたことで、同年、販路拡大事業部が設置された。
写真は、自主製品「キャッチフレーズ」「ロゴマーク」公募した時の表彰状授与式の記念写真。

表彰状伝達式風景

横浜市助役より挨拶

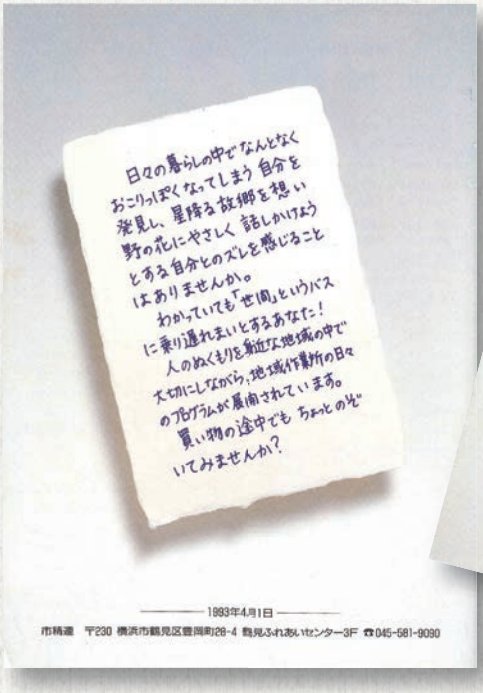
受賞者

受賞者

入選者記念写真

DATA

販路拡大事業部は、1990 年から横浜市補助金が付いたことで始まりました。この年、浜家連とともに、鶴見に無償貸与の事務所も設置される等、「市精連」発展のきっかけとなる事業となりました。下の販路拡大パンフは、初めてのパンフです。



販路拡大事業

1999 年、中区吉田町に恵友会内田理事長の紹介で、無償で作業所自主製品販売の常設店「とちの木」の開所。店番は作業所メンバー、職員がローテーションで実施。写真は開所式風景。

挨拶する菊地綾子さん

常設店「とちの木」外観

歓談風景、中央は大森課長

大平さん、誰と話してるの?

保健所の○○さんと山村係長

大平さん、池田さん、林さん

販路拡大事業

林文子 横浜市長

ラッピング研修風景

マリノスバザー

マリノスバザー

有隣堂戸塚モディ店フェア

販路スタッフ

販路拡大事業

手づくり製品フェア

2016年9月3日(土)～10月2日(日)

会場：有隣堂伊勢佐木町本店

HEART MADE

障害をもった人たちが ひとつひとつ心を込めて
作り上げた品物を 皆さまにお届けします。

木工品　布製品　革製品　和雑貨　生活雑貨　アクセサリー

9月10日(土)

10：00～
ワークショップ
革ストラップ作り
●お買い上げのパスケース・コインケースにイニシャルの刻印をいたします。
(ワークポート根岸橋)

18：00～
お菓子販売
クッキー等
(ジャンプ・キッチンみなと・ハウス陽なた)

9月11日(日)

10：00～
お菓子販売
クッキー等
(浦島共同作業所・ジョイカンパニー)

18：00～
パン販売 (仕事処アニミ)
お菓子販売 クッキー等
(浦島共同作業所・仕事処アニミ ジョイカンパニー)

主催：NPO法人横浜市精神障害者地域生活支援連合会(市精連)
横浜市障害者地域作業所連絡会(市作連)

後援：横浜市健康福祉局(予定)
横浜市社会福祉協議会障害者支援センター

お問合せ：市精連事務局 TEL：045-263-8100

研修事業

市精連研修会　於 湯河原厚生年金会館　平成 11 年 2 月 12 日～ 13 日

開会の挨拶をする吉塚代表

斉藤敦先生　講演会

吉塚代表と齊藤先生

種倉さん、岡村さん、小坂代表

最初の事務局員、立原さん